

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298600121		
法人名	株式会社ひなた		
事業所名	グループホーム 咲の樹		
所在地	〒298-0001 千葉県いすみ市若山485番地1		
自己評価作成日	令和5年4月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://hinata-md.jp/publics/index/34/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和5年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム咲の樹は、1ユニット9名のご利用者と共に生活をしています。ここでは、認知症状を抱えたご利用者同士が家庭の延長として入居され、静かに時間が過ぎていく中、家庭的な雰囲気を感じながら、ご利用者の生活に携わり、その方の生きてきた歴史や生活歴を尊重し、一人の人間として向き合い、感情や思いに寄り添いながら共に行動し、精神的に落ち着きが多くみられるよう、いかにご利用者自身が本来の自分を取り戻していくかを目的として、地域に開かれた事業所として運営されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は、JR外房線大原駅から徒歩20分の閑静な田園地域に立地する1軒の家、1階1ユニット9室全て個室に入居。昨年10月に開設し11月より入居開始、事業所の運営理念にある、「家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、利用者が安心と尊厳のある生活をその有する能力に応じ、可能な限り自立して営むことが出来るよう支援する」を実践している。利用者アンケートも5名(9名中)55.6%の回答率で、「本人の意志を尊重してくれていて、ありがたいです。常に目が行き届いているので安心してます。」といったコメントもあり、日々の職員のきめの細かい対応が入居者及びご家族からの厚い信頼性と安心感に繋がっているものと思われる。また、系列施設からの応援を受けながら計画的に実績を積み重ねてきている。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、利用者が安心と尊厳のある生活をその有する能力に応じ、可能な限り自立して営むことが出来るよう支援することを目的とし、実践につなげています。	事業所の特徴は、地域との絆を大切にし、豊かな人間関係を保ち支え合えるような環境の提供、楽しみや潤いのある普通の生活を送ることが出来ることを何よりも優先し、朝夕職員の業務引継ぎ時に確認し合い、施設目標の「可能な限り自律して営むことが出来るよう支援する」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校までの歩行訓練を兼ねた散歩を日課に取り入れ、近隣の方々とあいさつを交わすこと、また、散歩途中の野菜直売所や近くのJA直売所での食材の買い物を一緒に行い、地域に慣れ親しめるようにしています。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域交流は計画通りには進んでいないが、感染状況を見極めながら近隣小学校までの歩行訓練を兼ねた散歩を日課としている。近隣住民とのふれあいも大切に、挨拶を交わしたり、散歩途中のJA直売所での買い物も一緒に行い、地域との触れ合いや絆を深めている。引続き、地域各団体のリーダーとの関係づくりを構築していくことを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナ感染症対策に留意しながら、見学や面会は随時行っています。地域に根差した福祉サービスの拠点となるよう全力で努力します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナ感染症対策のため書面報告にて開催し、資料内アンケートにて意見を聞かせて頂き、今後の参考としていきます。	運営推進会議は地域代表者を含め、2ヶ月に1回開催することを計画しているがまだ準備が整わず開催できていない。施設内での会議運営を職員間で都度開催する段階で、体制整備に追われている状況にある。	コロナ禍からの開設6ヶ月、課題解決や安定運営するための取り組みを優先してきたが、まずは体制整備、運営推進会議の構築・実践が急がれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新設ともあり、市担当者から助言やご指導を頂いています。今後も不明なことは相談し助言を頂きます。	新設での施設運営のため、できるだけ直接いすみ市役所(健康高齢者福祉課)へ出向いて相談する機会を通して連携強化を深めるよう取り組んでいる。運営推進会議の開催や地域包括研修への参加も積極的に取り組む計画をしているが、情報収集活動までにとどまっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関や職員通用口のドアやリビングルームの掃き出し窓には施錠はしていません。研修等により理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束についての指針に基づき、身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催する準備を進めている。身体拘束ゼロを実現するため全職員積極的に取り組んでいる。日中、玄関や職員通用口のドアやリビングルームのサッシュは施錠せず人感センサー等を設置しセキュリティ対策に力を入れている。また、声かけや言葉遣いに注意し虐待につながるような傾向がないかなど特に注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて勉強会を行い、虐待が見過ごされることかないよう注意を払い防止に努め、入浴時ボディーチェックを行い異変の気づきを重要視し、虐待の早期発見に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度について学び個々の必要性を関係者と話し、実際に活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不明な点がないかを確認しながら説明を行い、同意を得て契約をし不安や不満が残らないよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは日々のコミュニケーションの中から要望を聞いたり汲み取り反映させています。ご家族には面会時に普段の様子をお話するとともに、要望等適宜確認するようにし、また、電話連絡にて情報交換を行っています。	利用者については日頃、家族からは訪問時や電話連絡時、意見要望を聞き運営に反映させている。館内でのイベント・行事については現在企画段階のものが多く、ボランティア団体や協力先の探索・選定を模索している。お誕生会については、入居者一人ひとりの誕生日に合わせたイベントやお食事会などを実践し、その様子を写真に収め今後定例発行を予定している「おたより」に掲載出来るよう撮りだめしているところである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常のコミュニケーションの中から意見や要望・提案を聞く機会を設け、また会話の中から汲み取るよう努力しています。	施設長は話をしやすい雰囲気を作り、朝夕の業務引継時や適宜開催する職員間ミニミーティング時には意見交換と要望を聞き、運営に反映させている。また、情報の一元化と漏れの無いように「業務引継連絡ノート」を活用し、効果的に運用が図れるよう取り組みを開始している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制、実績、給与等、条件を整備し、職場環境の向上を進めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に参加する機会を設け、職員の質の向上を図っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者連絡協議会に加入し、各種の研修や交流会に参加しています。また、認知症グループホーム連絡協議会に加入しサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面談の際、何気ない会話の中から不安や要望を汲み取り、早くに馴染みの関係になれるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・相談、入居前面接時に、ご家族が抱えている不安や要望の把握に努め、また、ご家族の協力も必要とすることも説明し、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた後も必要としている支援を判断し、ニーズに応じた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がそれぞれの役割をもって家庭的環境の中で生活が送れるよう自立支援を心がけ、共同生活を送る家族のような関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染症に留意し面会に応じています。面会時や適宜電話連絡をし、普段の様子をお話し、今後の対応方法等相談しています。ご本人とご家族の絆を大切にしながら、ご本人を支えていける関係を築いて		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会等、できる限りの支援をしていけるよう努めています。	コロナ禍にあり外出規制や行動制限があるため馴染みの人との交流については限りがあるが、家族との良好な関係は保たれている。また、入居者に寄り添った対応をしてくれるとのアンケート結果からも、小回りのきいた対応が評価されている。地域連携強化策として、町会や老人会、幼稚園、小学校などとのネットワーク造りを図れるよう計画的に進めて行くこととしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操や近隣への散歩、レクリエーション活動を日課に取り入れ他者との関わり合いを持ち、また洗濯物たたみ、洗濯物配りやテーブル拭き、お茶入れなど自主性を引き出しながら関係づくりの支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じ、ご本人やご家族の相談や支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント等を参考に、また、普段の会話や態度の中から本人の思いを汲み取るよう努めています。、その人らしい生活ができるような支援に努めています。	入居前の生活のリズムを壊さないような支援をし、先ず施設での生活に馴染んでもらうように努めている。例えば、食事も入居前に取っていたものを優先し、時には他の利用者とメニューの違うこともある。不穏な状態に陥りやすい人で、日中やることなくどうしたら良いか分からないときりに娘さんに電話を掛ける人がいる。その人には、何かお手伝いをお願いし職員と一緒に作業をすることで、本人は落ち着きを取り戻している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、ご本人やご家族からそれまでの生活歴・馴染みの暮らし方や生活環境を聞き把握に努めています。家族の思いにも応えられるよう支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や状況を介護記録に記入し、申し送り時意見交換を行うようにしています。言動や表情の変化などに注意を払っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を踏まえた上でケアプランを作成、その人に合ったサービスの提供に努めています。家族の面会時に普段の様子を報告しながら、希望も確認しています。	家族からは、歩けなくならないようにしてほしいという要望が多い。職員は杖歩行、介助歩行等で極力歩くような支援を意識している。ケアプランの作成に当たっては、本人、家族からの要望を聞き、フロアミーティングで職員からの意見を参考に、ケアマネージャーである計画作成担当者が計画を立てている。出来たケアプランを施設長に報告の上、家族の了解を得て支援の実施が行われていく。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や職員間の申し送りノートを活用して情報を共有し、実践や介護計画に反映するよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への通院支援などご本人やご家族の希望に応えられるよう、柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、個々が安全で楽しい生活を営めるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、今までのかかりつけ医に継続受診の際には、ご家族の協力が得られるのを確認し、施設側でもできる範囲での受診の支援を行っています。	施設では、提携医による訪問診療の制度は取っていない。入居前からのかかりつけ医に家族が付き添っての通院をお願いしている。家族の付き添いということで、病院に行った帰りに食事を一緒にして戻ってくることもある。施設は昨年10月に開設したばかりで、医療体制もこれから整備されていくが、本部所属の看護師がいて何かあれば連絡し来てもらうようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の看護師に相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院した際には、安心して治療ができるよう、病院関係者と情報交換や相談をし、連携を図りながら支援するよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族や医師と相談しながら、ご本人やご家族の意向に沿ってできる限りの支援を行うよう努めています。	現時点では、施設での看取りは考えていない。入居条件である集団生活ができなくなった場合は、退居するという契約に準じた形を取っている。今後、重度化した場合の対応が必要となることも考えられ、職員の啓蒙のためにも研修に取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備はありますが、全職員の普通救命講習の受講はなく、急変時に対応できるよう定期的な訓練を行うよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常火災通報装置を設置しています。また、消防署の協力を得た定期的な避難訓練や自主防災訓練等、現状としては体制の整備が課題としてあります。	開設間もないこともあり、消防署の指導を受けながら災害対策を検討することになっている。また、地区の消防体制にも組み込んでもらうべく、消防団との話し合いも今後必要と考えている。水害発生の場合の避難場所は近くの小学校が指定場所となっているが、未だ避難訓練の実施はされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は言葉遣いに気を配り、心身の状態に応じて言葉かけを考え、プライバシーを損なわないように配慮しています。	人生の大先輩である人たちを敬う意味からも、「～してはだめ」といったスピーチロックに繋がるような言葉遣いをしないよう注意している。プライバシーを守る点からは、トイレのドアを開けっ放しにしないことを徹底している。また、自己決定の考えを重視し、幾つかの中から選択してもらうことで本人の意思を大事にするように接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望を表せるよう働きかけをし、理解できるように説明を行い、自分で決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れに沿った働きかけはしますが、ご本人のペースで生活できるような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容、または家族の協力による外部の美容室を利用しています。服装は気候に合った衣類調節に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を買い出しに行ったり、自主的に参加してくれる方には調理の一部のお手伝い、盛り付けやおしぼりの用意、テーブル拭き、お茶入れ、下膳等無理のない範囲でお願いしています。また行事やお誕生日などは特別メニューに心がけています。	食事の手伝いをお願いした時に、それをやり遂げることで本人の自信に繋がるような支援に努めている。食材は食業者から調達することもあるし、近くのスーパーに利用者と一緒に買い出しに出掛け、調理することもある。普段の食事以外には、季節に応じた食事メニューや利用者の誕生日にちらし寿司を取り寄せて誕生会を開くことも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮したメニュー提供に努め、個々の状況や体調による食事形態やメニュー変更にも対応しています。食事摂取の把握に努め、水分補給には注意を払っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っています。義歯は夜間洗浄後、預かり置きまます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多く、失禁のある方には適宜、声掛けやご本人の様子、行動でトイレ誘導を行っています。歩行困難な方も日中トイレにて排泄介助を行っています。	本人の生活のペースを守れるよう、排泄の自立支援も考えている。そのためにも、近隣の小学校までの散歩、室内での歩行訓練、水分補給等の支援を通してスムーズな排泄に繋がるよう工夫している。その他、失禁を防ぐためにパッドの利用や適宜な声掛けによるトイレ誘導により、利用者にとっての生活リズムが安定するよう注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、散歩をはじめ、軽い運動などを取り入れ予防に取り組み、慢性的に便秘の方は薬の処方がされており、排便の確認を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っています。その時の体調やご本人の様子で柔軟に対応しています。また、入浴リフトを設置しており、立ち上がり困難な方も安全に入浴することが出来ます。	痰の出にくい人で、痰出しがうまくいかない時など入浴を拒否したことがある。この場合は無理強いせずに、清拭に切り替えている。安全面からは、立位の保持が難しい人には入浴リフトを使ってお風呂に入ってもらっている。時には、職員が家の庭になっている柚子を持ってきて、ゆず湯に浸かってもらい季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や運動を積極的に支援し、昼夜逆転にならないように取り組んでいます。また、生活習慣やその時々状況に応じ、柔軟な支援に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を整理しファイルを作成して、確認・把握ができるようにしています。誤薬のない服薬支援を行い、症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望や能力に応じて家事や壁画制作、また散歩や買い物、花見などの外出活動を行っています。晩酌として度数の低いアルコール摂取も柔軟に対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と外食されたり、希望に応じて散歩や買い物の支援をしています。また行事としてお花見・ドライブ・外食等外出支援に努めています。	外出に関して、コロナ禍ということでの規制はしていない。家族が連れ出して外食、お墓参り等はされている。近隣の小学校までの散歩は日課の一つとなっていて、途中にある家の花を鑑賞しながら、その家の人との会話も弾んでいる。施設としての外出計画は立てられていないが、法人内のデイサービスの外出計画に参加し、白子の河津桜、秋元牧場の菜の花を見にドライブに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には必要なものは立替し実費徴収させていただいていますが、お財布を自己管理し外出の際に買い物をする方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し使用している方もいます。希望があれば電話をかけお話しいただく支援も行います。知人や身内からお手紙が届く方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースにはご利用者の作品を飾ったり、季節に合った壁面制作や装飾、草花を飾ったりして季節感を味わえるようにしています。	季節に応じた工作物をリビングに飾り、季節感をあじわってもらうようにしている。クリスマスにはツリーを作って壁に飾ったり、ぬり絵で梅の花を作りひな祭りを使った。リビングのテーブルは円卓にし全員が集まってワイワイできるような環境となっている。床はフローリングされており転倒防止からも、全員運動靴を履くようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングスペースに大型テレビを設置し、3人掛けソファを2つとテーブルを用意。ダイニングテーブルは円卓になるような形状の物を使用し、お互いに顔を見て話せるようにしています。思い思いに場所を移動され過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望により馴染みの物を自由に持ち込むことが可能となっています。家族の写真やご本人の制作物等飾られている方もいます。	環境が入居前と変わらないようにという観点から、使っていた椅子や布団等を持ち込んでいる人もいます。居室の入り口には月に合わせた花の名前が表札代わりに掛けられていて、自分の部屋が分かるようにしている。部屋の窓から外に出られないよう、窓は高窓にして安全対策を取っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレ、お風呂などの場所を分かり易くし、できるだけ自立した生活が送れるような支援に努めています。		